

編集後記：この原稿は数年に1度レベルの冬の嵐が過ぎ去った2月中旬の札幌で書いています。新型コロナウイルスの流行が始まり、1年がたちました。毎年楽しみにしているさっぽろ雪祭りも残念ながら今年は中止となりました。昨年の雪祭りはちょうどコロナウイルスが警戒され始めた頃で、私も会場に行くのは控えましたが、当時はその後の感染の急拡大は想像もしていませんでした。気象学会の大会や多くの研究会もオンライン開催となりました。マネジメントされた方には本当に頭が下がります。また、特に現場観測をされている方は、研究計画の変更を余儀なくされるなど苦

労があったと聞きます。

大学での授業やゼミも殆どがオンラインとなり、慣れていない私にとっては試行錯誤の連続でした。音声入りの講義資料を作る際には、囁んでは録音し直しの連続で、最初は1回分の録音に丸一日かかかってしまいました。同時に自分の普段の話し方がいかに適当で、講義内容の理解もいかに曖昧か、認識する良い機会になりました。慣れは怖いもので、そのうち囁んでも気にならなくなってしまいました。

(川島正行)